

## 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業

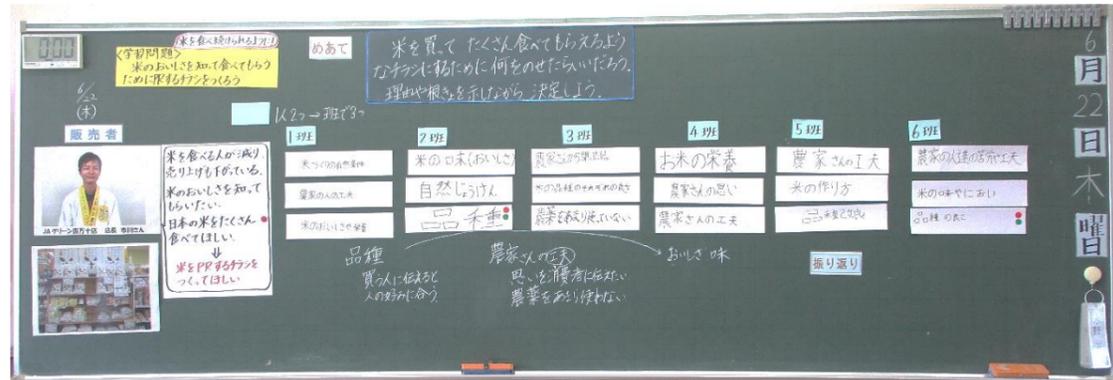
### ☆前期授業研究会Ⅱ(社会科)☆

6月22日(木)は、標記の社会科授業研究会が行われました。4月の教材研究会を受けて、再度、単元構想や本時の授業について検討を加え、児童が課題意識(米の消費量の減少、販売者による米をPRするチラシづくりの依頼)をもち、それを主体的に解決していけるような単元構想にしました。本時の授業では、販売者であるJAの方から依頼されていた米をPRするチラシに載せる内容をこれまでの学習を踏まえて多角的に考え、グループで根拠や理由を示しながら話し合い、決定していく学習を行いました。

**単元名 「わたしはこう考える！これからの日本の農業～日本人の主食 米づくりを通して～」全13時間  
5年2組 伊与田 紗代**

**本時の目標：米を販売するチラシに載せる内容について、これまでの学習を踏まえた自分の考えを表現することができる。**

**本時における見方・考え方：米づくりの現状や課題に着目し、生産に関わる人々の工夫や努力を踏まえて、これからの米づくりについて多角的に捉え、自分の考えを表現している。**



PRするチラシに載せたい内容を付箋に書き出しています。



チラシに載せたい内容について、理由や根拠をもとに話し合っていて決めています。



グループで決めたチラシに載せる内容の理由を説明しています。



### 授業参観の視点(2点)に沿って、グループ協議を行い、全体共有をしました。(抜粋)

- ①本単元で育てたい資質・能力は育成されていたか。
- ②社会科の見方・考え方を働かせる学習過程や学習活動となっていたか。

#### <研究協議より>

- 育てたい資質・能力の育成へとつながり、教科横断的に進められる単元構成となっていた。
- 個人の考えの理由や根拠をこれまで学んだことをもとに付箋に書いていた。
- 既習内容(学びの足跡)を使い、学んで得た知識を生かして学習ができていた。
- 生産者や消費者などのそれぞれの立場で多角的に考えることができていた。
- ▼チラシづくりを通して、これからの米づくりとどのように結びつけるのか、学習問題とチラシづくりの関連性はどうか考える必要がある。
- ▼これまでの学習をもとに、チラシに載せる内容についてグループで話し合いながら進めていたが、個人思考における理由や根拠をもとに伝えたり、話し合ったりすることに課題があった。理由や根拠をしっかりと伝えられるようにしたい。
- ▼グループでチラシに載せる内容を選択するため、個人の考えがなくなってしまった児童の意欲や学びの深まりはなかったのではないかと。→個人でチラシを作成でも…個別最適につながる。
- ▼全体共有の場で、「消費者や生産者の視点で考えられているか」と問い返していたが、消費者、生産者と区別する必要があったのか。
- ▼本時の評価は難しかったのではないかと。評価方法や評価場面をしっかりとっておく必要がある。

#### 高知県教育委員会 小中学校課 山崎指導主事より

- 見方・考え方を働かせる姿を生み出すために
  - <ポイント> (本単元における手立て)
  - ① いかに自分事の課題にするか →地域の人をゲストティーチャーに迎え、思いや願いを知る場面をつくる。
  - ② 意思決定の場をどう仕組むか →どの内容をチラシに載せるか、どの立場で考えた内容をチラシに載せるか選択する。
  - ③ 自分の考えをどうもたせるか →毎時間の学習内容をチラシの内容として意識させる。学習の流れ、学習の足跡の掲示。チラシに載せる項目数を決める(理由や根拠をもたせる)
- 児童の学びや振り返りから
  - ・米づくりの自然条件を調べる中で地図帳を活用して根拠を示しながら伝える児童の姿 →位置や空間的な広がりを見方など、社会的な見方を大事にする。
  - ・自分の体験との比較、生産者の工夫につながる児童の発言 →児童の発言の中から全体で共有し、広げていきたい。
  - ・チラシに載せる内容や課題解決に向けた児童の振り返り →児童の振り返りも全体で共有していきたい。
- 目的のある学習活動に
  - 活動には、必ず目的があり、何のためにこの活動をするのか、この活動が次の何につながるのかということ意識した授業づくりが大切

#### 授業者の17レクション

それぞれの考えを整理したりまとめたりすること、自分の考えを理由や根拠を示しながら話し合うことができていないグループもあったため、日々の授業から既習内容や資料等を理由や根拠に自分の考えを伝え合う場を設定し磨き合っていかなければならないと思いました。また、児童の考えから広げたり、児童の考えをつないだりすることに課題があるため、どこで何を考えさせ、どんなことを全体で共有していくのか明確にしたり、児童の思考を促すような発問を工夫していきたいと思いました。評価についても、しっかりと見取ることができるよう評価の場面や方法を考えていきたいと思いました。

小学校社会科では、社会的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成につながるよう問題解決の過程や資料活用を大事にした授業づくりをこれからも進めていきたいと思います！